

美人特区

鎌倉

Vol.5

2019/8/3

第1弾は、海を越えてガーナからお迎えした国分敏子さん



■今回はガーナで活動されている国分さんをお迎えしての対談の第5回目となります。

マイそろばん、ガーナの村で

スポーツニクインターナショナルの紹介映像
国分・スポーツニクは年に2回チャリティデー
コンサートを開催しています。それは活動支
援の為に、夏に行われるのがガーナ支援のも
ので、会場でビデオを流しています。

2014年だとそろばん教室の子供達も映っ
ています。そろばん教室の子供達は日本から
送られてものを使っているのですが、よっぽ
り使い方の価値がわかってないと、送られて
きたからといって闇雲にはあげていないん
です。それには掛け算を覚えて九九を暗記し
て、掛け算、割り算が使えるようになったら、
「マイそろばん」として、テプラに名前を付
けて渡しています。2011年から始めて、
現在までにマイそろばんを手に入れている子供
は12名になりました。それは私の誇りで、
これからは頑張り続ける力になるものです。ビ
デオではそろばんを手にした子供の思いが語
られています。

国分：答えではなく、Thinking
やProcessが大事。答えをすぐ教える
のではなく、どうしてなんだろ？何故なん
だろ？ということを知って欲しい。
榎田：誰でも答えを出せるようになったら、
価値なんかなくなってしまうよ。
国分：答えの出し方なんです。いろんな
出し方がある。
榎田：人間って、ここまで育てたら大丈夫と
いうところがあって、そこさえやれば後は自
動でいくんですよ。自動で行く前に、いろい
ろ入れちゃうと上手く働かなくなってしまう
国分：(写真を指差しながら)これ、いろい
ろと問題があった図書館プロジェクトで、本
棚を作るお金を預けていたら、そのお金がど
こかに消えてしまったんです。

榎田：ありがちですね。
国分：とうとう我慢できなくなって、チャラ
にしてもう一度作りなおしました。信頼し
ている方に頼れば、ジュンコがお金をくれると
いう式をつくってしまった。いろいろあるん
ですけど、貧しい村での子供達なので、教育
格差もすごくある。そういう所なんですけど、
まだまだ活動していきたいなと思っています。

徳島商業高校 x カンボジア日本友好学園

榎田：なんだか、国分さんみたいな活動をさ
れている日本人は世界中にいると思うんです。
やってることは、バラバラだと思えます。で
も、何か共通した部分、子供の可能性を信じ
ておっしゃってただけ、その可能性をどう
引き出すのかということに関して、アプロ
チ自体は沢山あるけれども、そういったこと
をやっている人が繋がったり、協力し合える
ような、そして卒業した子がまた更に助け
られるようになるのが夢ですね。先ほど出て
きた徳島商業のOG達は後輩を手伝うために
来ている。
国分：すごいですね、そういうふうになると
嬉しいですね。
榎田：その鈴鹿先生というのが面白いん
ですけど、もともと、高校の先生じゃなくて、工
業大学を出て、工業系の修士まで取って、魚
の養殖用の資材を販売する会社に勤めて、そ
の後、環境コンサルタントとして独立した時
に「募集しても人が来ない！」という状況に
陥った。そのときに、もっと商業教育をちゃ
んとしないとまずいんじゃないかと思って、



商業高校の先生になったの。今、徳島商業と
カンボジア日本友好学園というところが共同
で工場を作り運営しています。カンボジア日
本友好学園というのは日本の支援で作られた
中高一貫校なんですけど、東日本大震災の後に
経営的に厳しくなったんです。その支援を何
故か鈴鹿先生のところに来て、徳島商業の持
つスキルを使って商品開発して、その商品を
売ってで学校の運営資金を作れないかとい
うことで生まれたプロジェクトなんです。僕
も行きましてけど、失敗の連続でね(笑)、
それを生徒が経験してきてる。5年くらいに
なるのかな。だからそのときの卒業生は大学
を卒業している子もいる。彼らは卒業した後
も手伝いしてくるんです。カンボジア日本友好
学園の卒業生も大学を卒業するようになって
ます。
ソッタという卒業生が「私はこの学校に行
ってなければ、ずっと水牛の世話をしてま
した」と話していたのが印象的でした。彼女
はカンボジア王立大学を卒業して、国を支え
るような人材になってきている。日本の人が
支えてくれて、日本の友人達と沢山のこと学
べたからと彼女は言うんです。そう、そうい
う人が世界に増えれば、日本の友好国という
か、友人が増える。徹底的に人材育成という
地味な所を真っ向勝負でいきたいと思う。普
段はバラバラにやっていると、話し合うことで自
分のやっていると上がっていくよ
うなところがある。

国分：日本は、ガーナから学ぶことが多いと
思います。実はこのボールペン、ガーナで使
ってるものなんです。「一時帰国するからいい
や、100円ショップで買おう！」とは思わ
ず、私は日本で仕事していた時は文房具が大
好きで、気に入ったら買って満足して、使わ
ずに筆箱に入れてました。今回、小中学校で
授業させていただいた時に話なのですが、
ガーナにきて、プリント5枚やったらボー
ルペン1本プレゼントなど、頑張った時のご
褒美としてあげています。ボールペンをあげ
たからといって、翌週にその子が教室にもつ



幸せを作るガーナ

国分：日本は、ガーナから学ぶことが多いと
思います。実はこのボールペン、ガーナで使
ってるものなんです。「一時帰国するからいい
や、100円ショップで買おう！」とは思わ
ず、私は日本で仕事していた時は文房具が大
好きで、気に入ったら買って満足して、使わ
ずに筆箱に入れてました。今回、小中学校で
授業させていただいた時に話なのですが、
ガーナにきて、プリント5枚やったらボー
ルペン1本プレゼントなど、頑張った時のご
褒美としてあげています。ボールペンをあげ
たからといって、翌週にその子が教室にもつ

てくるかという、もってこないんです。大
概、親が使ってるんです。家にボールペンが
無いから。授業中にお兄ちゃんボールペン
を使ってる、弟がその1本を借りに行くん
です。それを見て、いままでも筆箱パンパンに
入れていたけど、ガーナの子供に学んで1本
のボールペンをインクが無くなるまで使うよ
うになったんだよという話をします。
あるとき、日本から小さなダンボール箱が
送られてきたんです。私は郵便局で税金を払
って、それを受け取りました。開けてみると、
使いかけの小さな鉛筆や消しゴムが入って
いて、「ガーナの貧しい可哀そうな子供達に何
をすべきか、子供達と考えました。是非鉛筆
を使ってください」と書かれたお手紙が入っ
ていたんです。それを見た瞬間、「何だろう、
それなら鉛筆と消しゴムを最後までお家で使
えばいいんじゃない？使いきることが大事な
のに」と思ったんです。またあるときは、
紙おむつでなく、黄ばんだオムツが送られて
きたんです。古着も送られてきたんです。
「ガーナは一切そういう物は必要ない！」と
いって、送られてきて困るからと言って、
ホームページからガーナの住所を削除する
かしないかで、秋沢淳子さんとバトルみたい
になったことがありました。どうしてもガーナ
は貧しい、可哀そう、となってしまうだけ
で、こちらは使いかけの鉛筆、古着を受け取
るにしても税金を払う、運賃運賃がかかるん
です。日本の方に学んでほしいのは、ガーナ
は貧しいだけじゃないんですよ、そこから学
ぶことが沢山あるんですよ、ということ。そ
れを授業を通して伝えていきます。
榎田：実際に(国分さんが)暮らしているか
らこそ、心から感じて伝えられる言葉だと思

います。テレビだけ見ると、一日〇〇円で
子供の命がなどのCMが流れると、何とかし
なきゃって思ってしまうんですが、方法が古い
国分：そう、みんながハッピー×2のところ
を映してほしい。日本人って、可哀そう意識
が高いと思う。可哀そうだから、何かしてあ
げたいという気持ち強いと思います。でも、
うちの子供達の授業風景を見ると、こんな明
るい子供達は応援しなくていいじゃないか
と感じるハッピー×2な事をインスタグラム
等にはあげています。実際可哀そうなこと
あるかもじゃないけど、応援して、支援して
くれる方々には、そのおかげで、国分敏子は
活動が出来るし、子供達を幸せにするために
頑張ることができるというメッセージを伝
えたい。
榎田：僕ね、幸福と不幸を分けていて、不幸
は状況だけ、幸福は能力だと教えている
んです。不幸は状況だし、永遠に続くもので
はない。幸福は能力だから、自分で伸ばせる
ということ。いま子供達に教えているのは、
幸福になる能力。幸福を感じるの
System1だから、まずそこをどう豊か
に育てるかということ。国分さんは既に
System1を育てる教育を実践されてい
るし、ガーナにはそれが育つ環境が揃って
いると思います。そしてどうやって
System2と運動させていくかが知性だ
と思っています。偏差値が高い人が知性が高
いっていいわけではない、知能は高いか
もしれないけど、知能が高いつても魅力
的なものだから、僕は魅力的な知性を持った
方を今後も発信していきたい。

レッテルを貼る生きづらさ

国分：なんで日本のニュースとかは年齢を出
すんでしょね。ガーナ人は年齢を気にしな
い。例えばコメント紹介なんかで、年
齢、一児の母というふうに出ているけど、そ
の情報必要ですか？って思います。
榎田：それね、コンプライアンス、倫理なん
ですよ。名前前のついた引き出しに入りたいの
何だか分からないものが出てくるというのが
日本人が一番不安だから。それが弱いところ
なのかもね。バイアスという思い込みをつ
つ、判断していくという癖がある。
国分：だから日本って生きづらいのかも。
榎田：日本はレッテル貼ることで、自分の立
場を総体的に安全な場所に置くという方法が
身に付いているんですよ。自分で生きやすくし
ていけばいいし、そういう幸福な人を育てて
いけばいい。
国分：日本は失敗をつつことが好きなん
じゃないですか？
榎田：ありますね。ガーナはないの？
国分：ガーナもあるかも。例えば、ガーナ
でフレンドリーな国と思われがちだけど、お
葬式の時に着る服の模様に意味があつて、入
歯のような柄を着てきたら、本当は私あなた
のよというメッセージがあるんです。ガー
ナも本音と建前があります。ガーナは4人
まで奥さん持てるんです。でも全員が仲が
いいわけではないと思う。



■と言う感じで、話はまだまだ尽きません
ですが美人特区@鎌倉の記念すべき第1弾は
海を越えてガーナからお迎えした国分敏子
さんでした。今後日本、世界から「美しく生
きる人」をお招きしてご紹介していきたいと
思います。